

日本陸水学会第78回大会プログラム

2013 大津

会期 2013年9月10日(火)～13日(金)

会場 龍谷大学瀬田キャンパス(2号館, 青志館)

大会日程

月 日	時 間	行 事	会 場
9月10日(火)	10:00～12:00	幹事会	2号館102講義室
	12:00～15:00	和文誌編集委員会	2号館C会場
	12:00～15:00	英文誌編集委員会	2号館B会場
	15:15～18:45	評議会	2号館A会場
9月11日(水)	10:00～	受付	2号館北エントランスホール
	10:45～12:00	優秀講演賞審査セッション	2号館A・B・C会場
	13:00～17:00	ポスターセッション	2号館109～113演習室
	13:00～15:00	ポスター・コアタイム	2号館109～113演習室
	15:00～17:30	課題講演 No. 1, No. 2	2号館A・B会場
9月12日(木)	17:30～18:30	自由集会「陸水物理研究会」	2号館C会場
	9:00～17:00	受付	2号館北エントランスホール
	9:30～12:00	課題講演 No. 3	2号館A会場
	9:30～12:15	一般講演	2号館B・C会場
	9:30～15:00	ポスターセッション	2号館109～113演習室
	13:00～15:30	公開シンポジウム	2号館D会場
	15:45～17:45	総会, 学会賞授与式	2号館D会場
9月13日(金)	18:00～20:00	懇親会, ポスター賞・優秀講演賞授与式	青志館
	9:00～11:30	受付	2号館北エントランスホール
9月13日(金)	9:30～12:00	一般講演	2号館A・B・C会場

A会場(2号館120講義室), B会場(2号館103講義室)

C会場(2号館106講義室), D会場(2号館220講義室)

日本陸水学会第78回大会(大津大会)事務局(E-mail: jsl_otsu@yahoo.co.jp)

龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科

(〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5)

大会実行委員会

委員長 : 遊磨正秀(龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科)

事務局長 : 岸本直之(龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科)

委員 : 中野伸一(京大大学生態学研究センター)

藤井智康(奈良教育大学理科教育講座地学教室)

山中裕樹(龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科)

大会案内

受付

- イ) 受付は9月11日(水)午前10時から、龍谷大学瀬田キャンパス2号館北エントランスホールで行います。
- ロ) 当日参加費：一般会員7,000円、学生(会員・非会員とも)4,000円、一般非会員8,000円
懇親会費：会員・非会員とも6,000円、学生4,000円
- ハ) 講演要旨集のみご希望の方には、1冊5,500円にて販売します。
- ニ) 参加費の支払いの確認後、名札と講演要旨集をお渡しします。会場内では名札を必ずお付けください。

口頭発表

- イ) 口頭発表は、発表時間12分、質疑応答3分の合計15分です。
- ロ) 口頭発表では、可能な限り液晶プロジェクターをご利用ください。液晶プロジェクターは、Microsoft PowerPoint 2007 または 2010 および Adobe Acrobat Reader を備えた Windows パソコンに接続します。演者はPowerPointのファイルもしくはPDFファイルをUSBメモリーまたはCD-Rに保存してお持ち下さい。ファイルはセッション開始に先立ち、各会場のPCにコピーして下さい。Macintosh等をご使用の方でPowerPointを利用される場合は、予めMicrosoft PowerPoint 2007 または 2010 で動作確認したファイルをお持ち下さい。
- ハ) 容量が極端に大きいPowerPointファイルは、表示に時間がかかるなど、不具合の原因となりますので、ファイル容量は必ず10MB未満にして下さい。
- ニ) 口頭発表に関する質の向上と若手研究者の学会発表に対する意欲高揚のため、優秀な口頭発表に対して大会実行委員会および将来計画検討委員会より賞を授与します。審査の対象になるのは、若手会員(大会開始2週間前の時点で学生会員もしくは最終学歴後5年以内の会員)による発表のうち、審査を希望した発表に限ります。審査方法等の詳細は大会ホームページ(<http://www.est.ryukoku.ac.jp/est/jslim78/>)をご覧ください。

ポスター発表

- イ) ポスターパネルの大きさは縦210cm×横90cmです。
- ロ) ポスターは9月11日(水)10:00~13:00の間に掲示してください。
- ハ) ポスター発表のコアタイムは発表番号が奇数の方は9月11日(水)13:00~14:00、偶数の方は9月11日(水)14:00~15:00です。ポスター発表者は、コアタイム中は必ず自分のポスター前で待機してください。
- ニ) ポスター掲示期間は9月11日(水)13:00~9月12日(木)15:00です。掲示期間終了後、9月12日(木)17:00までにポスターを撤去してください。
- ホ) ポスター発表に関する質の向上と若手研究者の学会発表に対する意欲高揚のため、優秀なポスター発表に対して学会より賞を授与します。審査の対象になるのは、若手会員(大会開始2週間前の時点で学生会員もしくは最終学歴後5年以内の会員)による発表のうち、審査を希望した発表に限ります。なお、賞の詳細に関しては日本陸水学会ポスター賞選考内規(<http://www.jslim.jp/kaisoku120104.pdf>)をご参照下さい。

課題講演

9月11日(水)午後および9月12日(木)午前に次の3つの課題講演を開催します。課題講演の発表時間配分は、コンビーナーにお任せします。

課題講演 No.1 河川の水質と流域の物質循環(A会場)

コンビーナー：楊宗興(東京農工大)

課題講演 No.2 陸水域における真核微生物の生態に関する最近の研究

コンビーナー：中野伸一(京都大・生態研)

課題講演 No.3 湖沼生態系に及ぼす沿岸帯の機能評価

コンビーナー：一瀬諭(滋賀県琵琶湖科学研究セ)、奥村浩気(龍谷大院・理工)

公開シンポジウム

イ) 9月12日(木) 午後に次の公開シンポジウムを開催します。

「湖沼の長期モニタリングを考える：京大・大津臨湖創設から100年を経て」

コンビーナー：中野伸一（京都大・生態研），花里孝幸（信州大・山岳化学総合研）

ロ) 大会登録者以外も参加できます。

企業展示コーナー

9月11日(水)，12日(木)に大会受付奥のホールにて企業展示を行います。皆様の研究にお役立てください。

懇親会

9月12日(木) 17:30より青志館食堂にて懇親会を開催します。当日受付も致しますので、懇親会参加希望者は会費6,000円(学生4,000円)を添えて、大会受付までお申込みください。

昼食

イ) 大会期間中、青雲館1Fの食堂(セルフサービス)およびRECホール地下食堂(フルサービス)が営業しています。

ロ) 弁当の事前予約申込者はクロークにて弁当をお受け取りください。

休憩室

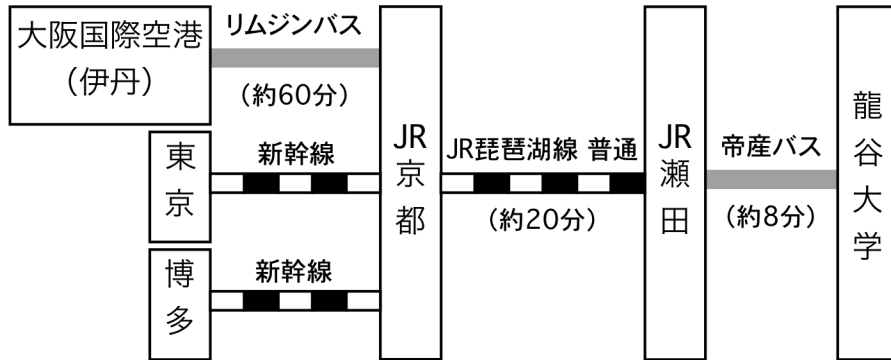
C会場横の107講義室を休憩室として開放しています。飲み物も用意していますので、ご利用ください。

クローク

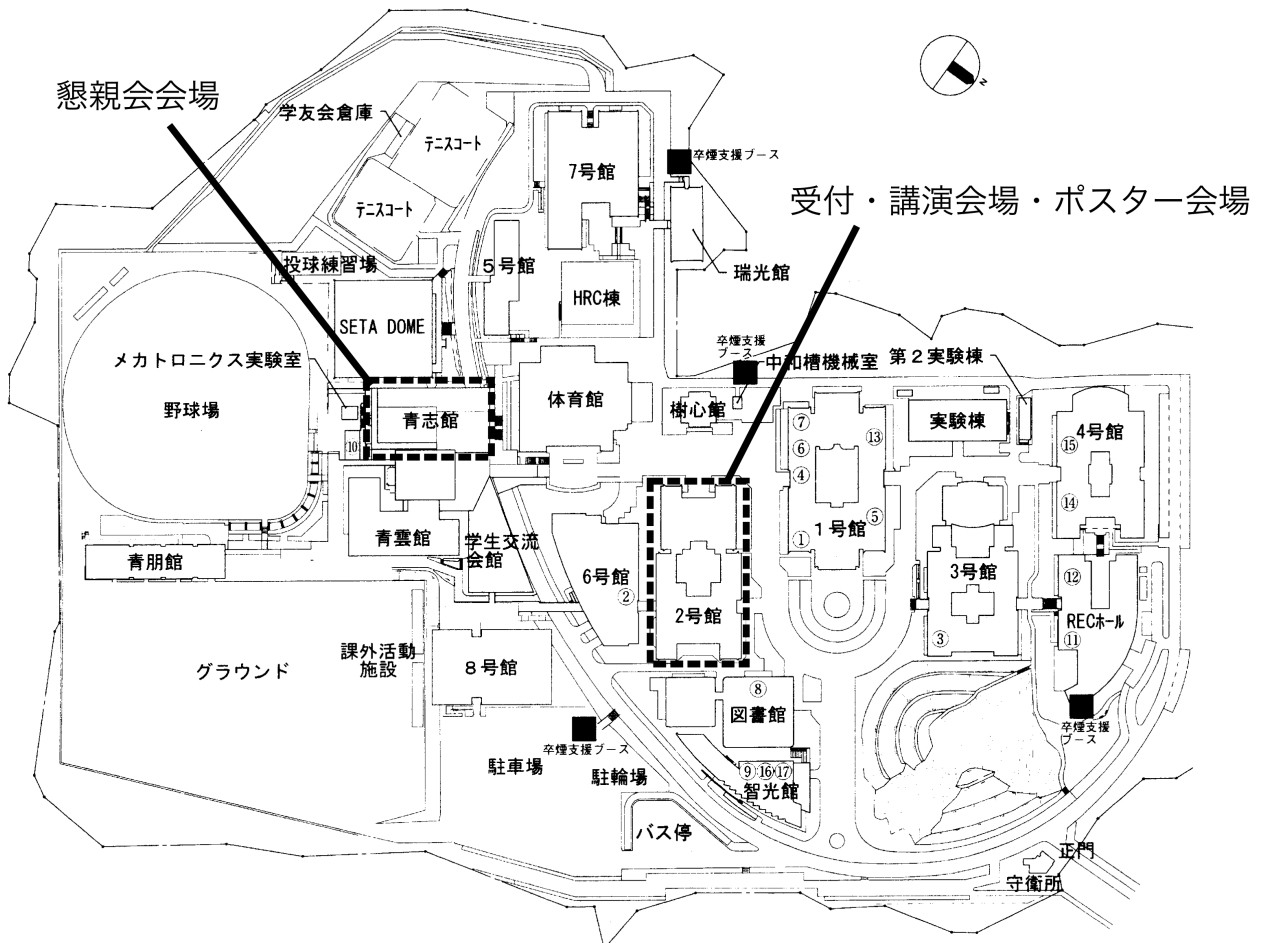
104講義室にてお荷物をお預かりします。利用の際は係の者に申し出てください。なお、貴重品は預かることができませんので、各自で管理してください。

大会会場（龍谷大学瀬田キャンパス）交通案内

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車，帝産バス「龍谷大学行」または「龍谷大学經由大津市公設市場行」乗車 約8分

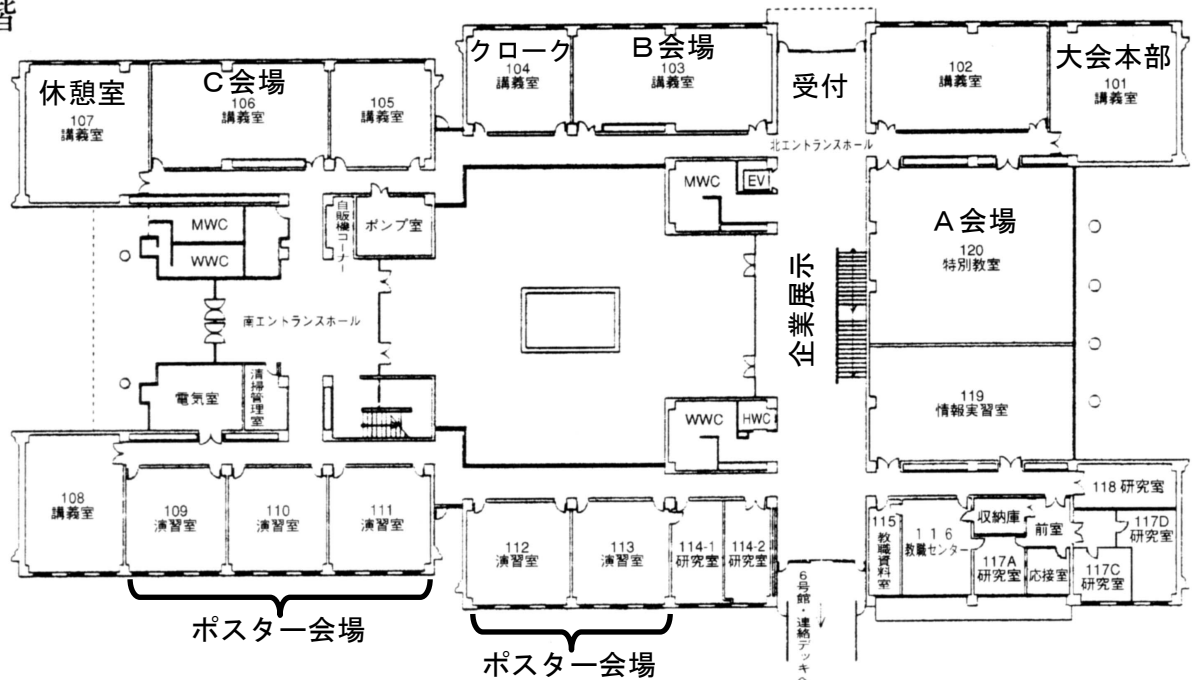


龍谷大学瀬田キャンパス会場案内図

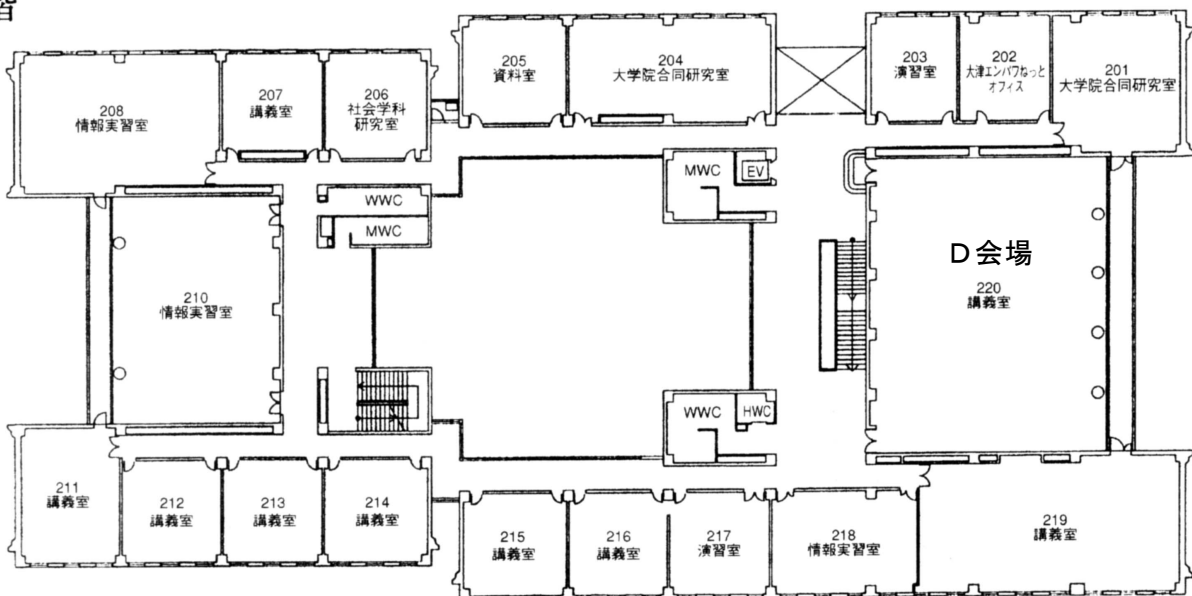


会場（2号館）案内図

1 階



2 階



公開シンポジウム

湖沼の長期モニタリングを考える：京大・大津臨湖創設から 100 年を経て

コンビーナー：中野伸一（京大・生態研），花里孝幸（信州大・山岳科学総合研）

9 月 12 日（木）13:00～15:30 D会場（2 号館 220 講義室）

開催趣旨

湖沼は、人間活動にとって必須である淡水の供給源であり、人類生存にとって貴重な生態系である。さらに、湖沼は閉鎖性が強く、地球環境変化を迅速かつ確実に反映してくれる優秀なセンサーであり、今後のさまざまな地球環境問題に対応するためには、湖沼の長期モニタリングは大変重要である。このため、我が国では多くの自治体が淡水生態系の長期環境モニタリングを行い、水環境の状態を継続的に把握するよう努めている。

しかし、多くの地方自治体にとって、長期環境モニタリングは財政的負担ともなってきた。特に、2008 年 9 月に米国で起こったリーマン・ショックは、我が国の地方経済にも影響し、地方自治体の深刻な財政状況は現在も続いている。厳しい財政状況の下では、自治体が行える行政サービスも限られ、しばしば環境モニタリングが削減の対象となる。地球温暖化等の様々な環境問題が生態系サービスの劣化を招き、人間生活に大きな影響を予測困難な形で与え始めている現在、自然資源を持続的に利用するレジリエントな自然共生社会を実現するためには、長期に渡る環境モニタリングの継続が必須である。我々は、さまざまな発信により、湖沼の長期環境モニタリングの人類生存に対する重要性を啓発すべき時に来ている。

日本陸水学会第 78 回大津大会の開催される年は、京都大学・旧大津臨湖実験所が創設されてから 100 年に当たる。この間、我が国のさまざまな機関が、湖沼の長期環境モニタリングを実施してきた。本シンポジウムでは、我が国の湖沼における長期環境モニタリングの事例を紹介し、それらの現状と成果を踏まえ、今後の地球環境問題における湖沼の長期環境モニタリングの役割を議論する。

2S01 大津臨湖実験所の遺産：生物標本が語る琵琶湖 100 年史

*奥田昇（京都大・生態研）

2S02 諏訪湖のモニタリング結果と長期モニタリングから得られた成果

*花里孝幸、宮原裕一（信州大学・山岳科学総合研）

2S03 琵琶湖におけるモニタリング結果と長期モニタリングから得られた成果

*藤原直樹，一瀬諭，岡本高弘，山中直（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

2S04 池田湖における長期モニタリングと湖水環境の変化

*伊藤祐二（鹿児島大・農），靱井和朗（鹿児島大・農）

課題講演 No. 1

河川の水質と流域の物質循環

コンビーナー：楊宗興（東京農工大）

9月11日（水）15:00～17:30 A会場（2号館120講義室）

開催趣旨

河川、溪流水の水質は、流域における様々な人間活動の影響をうけて変化する。その実態を明らかにすることは水環境を理解する上で基本的な重要性をもつ。また、その「水質」は流域で行われている物質循環に由来するものであり、その情報を内包している。必ずしも容易ではないものの、その情報を読み解き、またその情報を解析に生かすことができれば、流域の物質循環の定量的な理解につなげていくことができる。これも、陸水学の重要な課題と考えられる。本課題講演で取り上げられ河川は、いわゆる森林の溪流と人間生活圏を流れるそれより下流の河川の二つの領域からなる。溪流については、森林への大気沈着により拡大しつつある森林環境の顕著な変化、窒素飽和に関心が持たれており、トピックスの中心となろう。人間生活圏の河川では、流域の土地利用や産業活動によるインパクトとの関連性が焦点になろう。これら話題に関する現在の河川水質研究の現状と課題について情報を交換する。本セッションの最後には河川の窒素成分濃度の変動機構を総括し、この領域の今後についても展望したい。

1KA01 高安山小集水域における大気由来の窒素負荷と溪流水質の関係

*駒井幸雄（大阪工業大）、下川紗世（(独)大阪府立環農水総研）

1KA02 茨城県における溪流水質の広域調査

*渡邊未来・高松武次郎（国立環境研究所）・相馬久仁花（茨城県霞環科セ）・錦織達啓・越川昌美・林誠二（国立環境研究所）

1KA03 栃木県鹿沼地域の森林における窒素飽和の現状評価

*荻原香大（栃木県保健環境センター）・渡邊未来（国立環境研究所）・柏矢倉大介（栃木県保健環境センター/現 栃木県県土整備部都市整備課）・菅沼好一（栃木県林業センター/現 栃木県県東環境森林事務所）・三浦真吾（国立環境研究所）・大森牧子（栃木県保健環境センター）・林誠二（国立環境研究所）

1KA04 日本海側河川に対する中国大陸からの越境窒素汚染とL-Q式を用いた負荷量推定のための新しい提案

*神谷宏・宮廻隆洋・小山維尊・中島結衣（島根県保健環境科学研究所）・田林雄（茨城大学地球変動適応科学研究機関）

1KA05 集水域の土地利用の違いが河川水質・流出物質に及ぼす影響

*大久保卓也・東善広（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

1KA06 扇状地中の水みちにおける温度変動の形成機構－岡山と徳島の例－

*丸山 豊（広島大院）・小野寺真一（広島大）・北岡豪一（岡山理大）

1KA07 ベトナム・メコン河流域における養魚池の水質と窒素循環

*飯泉佳子・泉太郎（国際農林水産業研究センター）・Nguyen Cong Thuan（Can Tho Univ., Vietn）・松原英治（国際農林水産業研究センター）

1KA08 河川 NO₃⁻濃度変動機構の理解の現状と今後：セッション総括と議論

*楊 宗興（東京農工大）

課題講演 No. 2

陸水域における真核微生物の生態に関する最近の研究

コンビーナー：中野伸一（京大・生態研）

9月11日（水）15:00～17:00 B会場（2号館103講義室）

開催趣旨

近年の分子生物学的手法や分析技術の目覚ましい発展が、新規微生物や新しい物質代謝経路の発見をもたらしてきた。微生物生態学の研究分野がこの新発見に大きく貢献していることは疑いようのない事実であるが、残念ながら、細菌や古細菌ばかりが注目され、真核微生物を対象とした研究は隅に追いやられた格好となっている。植物プランクトンによる一次生産や、鞭毛虫や繊毛虫による細菌捕食は、物質の循環過程を理解するうえで極めて重要な過程で、これを担う真核微生物の生態も視野に入れた幅広い研究が求められている。本課題講演では、主として水圏をフィールドとして真核微生物の生態を研究している大学院生や若手研究者が、最新の研究成果について講演する。さらに、陸水域における真核微生物研究における問題点を、陸水学の専門家との討論を通じて議論しながら整理する。

1KB01 琵琶湖河口域から沖帯にかけての真菌存在量と酵素活性

*藤永承平・中野伸一（京都大）

1KB02 河口域定点における菌様原生生物ラビリントウ類の現存量と属組成の季節動態

*上田真由美（甲南大院）・本多大輔（甲南大）

1KB03 Seasonal changes in vertical abundance of kinetoplastid nanoflagellates in Lake Biwa with special reference to ecological importance of a particular flagellate group

*Mukherjee, I, H. Nishino, H. Takasu, Y. Hodoki and S. Nakano (Kyoto University)

1KB04 静岡県佐鳴湖におけるピコプランクトン群集の増殖と原生生物の捕食による死滅

*高巢裕之（東大大気海洋研）・Jessica E. LeClair(京都大)・山本貴幸・谷幸則(静岡県大)・中野伸一(京都大)

課題講演 No. 3

湖沼生態系に及ぼす沿岸帯の機能評価

コンビーナー：一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター），奥村浩気（龍谷大院・理工）
9月12日（木）9:30～12:00 A会場（2号館120講義室）

開催趣旨

水深の浅い沿岸帯は生物生産活動が活発であり、沖帯への有機物の供給源としても重要な役割を果たしていると考えられ、また、この沿岸帯の砂浜帯や浅場は、水質浄化機能と淡水魚介類の住処や産卵場の母体としても重要である。しかし、近年、湖沼の沿岸帯では社会経済活動の進展に伴い、湖岸堤や管理道路の整備、湖岸水域の浚渫など多くの浅場や砂浜帯などの自然的湖岸が消失している。

本課題講演では、沖帯へのプランクトン種の供給源としての沿岸帯のシードバンク機能や沿岸帯底質の状態評価手法、沿岸帯底質の泥質化要因について討議する。これらの討議を踏まえ、沿岸帯生産量や生態系機能なども含めて沿岸帯機能の重要性について総括し、望ましい沿岸帯のあり方を展望できればと考えている。

2KA01 琵琶湖における沿岸帯機能評価の概要

*一瀬諭、古田世子・廣瀬佳則・藤原直樹（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・馬場大哉（東レテクノ（株））、岸本直之（龍谷大）・西村修（東北大）

2KA02 泥質化に及ぼす流れと湖岸勾配の影響

*奥村浩気（龍谷大院）・岸本直之（龍谷大）・一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・馬場大哉（東レテクノ（株））・田中仁志（埼玉県環境科学国際センター）

2KA03 マイクロセンサーによる底泥直上・直下の溶存酸素分布測定結果

*馬場大哉・郡司房子（東レテクノ（株））・古田世子・一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・奥村浩気・岸本直之（龍谷大）・村上綾・中野伸一（京都大）

2KA04 硫黄のK殻 XANES スペクトルを指標とした底質の状態分析

*竹本邦子（関西医大）・馬場大哉（東レテクノ（株））・小川雅裕・与儀千尋・中西康次・太田俊明（立命館大）・一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

2KA05 琵琶湖底質を用いた藻類のシードバンク機能について

*古田世子・廣瀬佳則・藤原直樹・一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・馬場大哉（東レテクノ（株））岸本直之（龍谷大）・西村修（東北大院）

2KA06 浅い富栄養湖沼山ノ神沼における底層環境とシードバンク機能

*田中仁志（埼玉県環境科学国際センター）・古田世子・廣瀬佳則・藤原直樹・一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・馬場大哉（東レテクノ（株））・岸本直之（龍谷大学）・西村修（東北大院）

2KA07 底質環境に及ぼす沿岸帯の影響

*西村修、野村宗弘、藤林恵、相川良雄（東北大）・吉岡修也（立命館大）・一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

優秀講演賞審査セッション 第一日目 9月11日（水）午前

開始時間	A会場 (座長) 朴 虎東 (信州大)	B会場 (座長) 平林公男 (信州大)
10:45	1A01 植物プラントンが産生する粘質鞘の生分解耐性 *池谷仁里 (兵庫県立大院)・一瀬諭・古田世子・池田将平 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・岸本直之 (龍谷大)	1B01 宍道湖西岸域におけるヤマトシジミの成育環境と底質の違いによる生存率および成長について *辻谷睦巳 (大福工業株式会社・十四間川環境再生協議会), 川上豪, 相崎守弘 (認定 NPO 法人自然再生センター・十四間川環境再生協議会)
11:00	1A02 諫早湾におけるアオコ毒素ミクロシスチンの底生生態系への蓄積 *梅原亮 (熊本県立大院)・高橋徹 (熊本保健科学大)・小森田智大 (熊本県立大)・折田亮 (熊本県立大院)・堤裕昭 (熊本県立大)	1B02 河川におけるシルトの堆積が付着藻類—藻類食者間の相互作用に及ぼす影響 *森照貴・加藤康充・高木哲也・小野田幸生・宮川幸雄・萱場祐一 (土木研究所)
11:15	1A03 <i>Microcystis aeruginosa</i> 産生有機物を同化する細菌群の DNA 安定同位体プローブ法による解析 *木戸佑樹・春日郁朗・栗栖太・古米弘明 (東京大院)	1B03 溪流棲昆虫トゲマダラカゲロウ属の体色斑変異と河床地質との関係 *田村繁明・加賀谷隆 (東京大院)
11:30	1A04 藻類バイオマス生産を目的とした廃水処理水中での <i>Aphanothece clathrata</i> の増殖特性の評価 *山本純也 (龍谷大院)・岸本直之 (龍谷大)・一瀬諭・古田世子 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)	1B04 梓川における全亜鉛濃度が底生動物群集に与える影響 *瑞慶覧光・平林公男 (信州大)
11:45	1A05 PCR-DGGE 法を用いた下水汚泥の堆肥化過程における細菌群集構造の解析 *江口雅昭 (中部大院)・岩田文子・田口陽介・二宮善彦・上野薫 (中部大), 浜辺久, 澤井正和 (オオブユニティ (株))	1B05 印旛沼におけるオニビシの縞状刈り取りが水質にもたらす効果 *赤堀由佳, 鏡味麻衣子, 西廣淳, 高木俊 (東邦大・理)

優秀講演賞審査セッション 第一日目 9月11日（水）午前

開始時間	C会場	D会場
	(座長) 杉山雅人 (京都大院)	
10:45	1001 諏訪湖における溶存酸素濃度の経年変化 *吉田知可 (信州大学院)・原裕一・花里孝幸 (信州大学)	
11:00	1002 島根県布部ダムの窒素浄化に及ぼす高濃度酸素水の影響 *吉村南美 (島根大院)・神谷宏 (島根県保健環境科学研究所)・増木新吾・戸島邦哲 (松江建 (株))・山田順子 (島根大院)・加藤季晋・北村尚毅 (島根大)・奥野雅祥・清家泰 (島根大院)	
11:15	1003 沖縄島河川におけるウランの濃度分布と供給機構 *望月陽人・細田耕・杉山雅人 (京都大院)	
11:30	1004 琵琶湖における水位変動から求めた強雨時における河川流入量の評価 *岩木真穂 (京都大院)・熊谷道夫 (立命館大)・西勝也 (元・生物流体力学研究所)・焦春萌 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)	

課題講演 第一日目 9月11日(水) 午後

A 会場	B 会場
課題講演 No. 1 (15:00~17:30) 河川の水質と流域の物質循環	課題講演 No. 2 (15:00~17:00) 陸水域における原生生物の生態に関する最近の研究
コンピーナー：楊宗興（東京農工大）	コンピーナー：中野伸一（京都大学）
1KA01 高安山小集水域における大気由来の窒素負荷と流水水質の関係 *駒井幸雄（大阪工業大）、下川紗世（(独)大阪府立環農水総研） 1KA02 茨城県における流水水質の広域調査 *渡邊未来・高松武次郎（国立環境研究所）・相馬久仁花（茨城県霞環科セ）・錦織達啓・越川昌美・林誠二（国立環境研究所） 1KA03 栃木県鹿沼地域の森林における窒素飽和の現状評価 *荻原香大（栃木県保健環境センター）・渡邊未来（国立環境研究所）・柏矢倉大介（栃木県保健環境センター/現 栃木県国土整備部都市整備課）・菅沼好一（栃木県林業センター/現 栃木県県東環境森林事務所）・三浦真吾（国立環境研究所）・大森牧子（栃木県保健環境センター）・林誠二（国立環境研究所） 1KA04 日本海側河川に対する中国大陸からの越境窒素汚染とL-Q式を用いた負荷量推定のための新しい提案 *神谷宏・宮廻隆洋・小山維尊・中島結衣（島根県保健環境科学研究所）・田林雄（茨城大学地球変動適応科学研究機関） 1KA05 集水域の土地利用の違いが河川水質・流出物質量に及ぼす影響 *大久保卓也・東善広（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター） 1KA06 扇状地中の水みちにおける温度変動の形成機構—岡山と徳島の例— *丸山 豊（広島大院）・小野寺真一（広島大）・北岡豪一（岡山理大） 1KA07 ベトナム・メコン河流域における養魚池の水質と窒素循環 *飯泉佳子・泉太郎（国際農林水産業研究センター）・Nguyen Cong Thuan（Can Tho Univ., Vietn）・松原英治（国際農林水産業研究センター） 1KA08 河川 NO₃⁻濃度変動機構の理解の現状と今後：セッション総括と議論 *楊 宗興（東京農工大）	1KB01 琵琶湖河口域から沖帯にかけての真菌存在量と酵素活性 *藤永承平・中野伸一（京都大） 1KB02 河口域定点における菌様原生生物ラビリントウ類の現存量と属組成の季節動態 *上田真由美（甲南大院）・本多大輔（甲南大） 1KB03 Seasonal changes in vertical abundance of kinetoplastid nanoflagellates in Lake Biwa with special reference to ecological importance of a particular flagellate group *Mukherjee, I, H. Nishino, H. Takasu, Y. Hodoki and S. Nakano (Kyoto University) 1KB04 静岡県佐鳴湖におけるピコプランクトン群集の増殖と原生生物の捕食による死滅 *高巢裕之（東大大気海洋研）・Jessica E. LeClair(京都大）・山本貴幸・谷幸則（静岡県大）・中野伸一（京都大）

課題講演 第二日目 9月12日（水）午前

A会場

課題講演 No. 3 (9:30~12:00)

湖沼生態系に及ぼす沿岸帯の機能評価

コンピーナー：一瀬諭（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・奥村浩気（龍谷大院）

2KA01 湖沼における沿岸帯の機能評価について(1)-琵琶湖における沿岸帯機能評価の概要-

*一瀬諭、古田世子・廣瀬佳則・藤原直樹(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・馬場大哉(東レテクノ(株))、岸本直之(龍谷大)・西村修(東北大)

2KA02 湖沼における沿岸帯の機能評価について(2)-泥質化に及ぼす流れと湖岸勾配の影響-

*奥村浩気(龍谷大院)・岸本直之(龍谷大)・一瀬諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・馬場大哉(東レテクノ(株))・田中仁志(埼玉県環境科学国際センター)

2KA03 湖沼における沿岸帯の機能評価について(3)「マイクロセンサーによる底泥直上・直下の溶存酸素分布測定結果」

*馬場大哉・郡司房子(東レテクノ(株))・古田世子・一瀬諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・奥村浩気・岸本直之(龍谷大)・村上綾・中野伸一(京都大)

2KA04 湖沼における沿岸帯の機能評価について (4) 硫黄のK殻 XANES スペクトルを指標とした底質の状態分析

*竹本邦子(関西医大)・馬場大哉(東レテクノ(株))・小川雅裕・与儀千尋・中西康次・太田俊明(立命館大)・一瀬諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

2KA05 湖沼における沿岸帯の機能評価について(5)-琵琶湖底質を用いた藻類のシードバンク機能について-

*古田世子・廣瀬佳則・藤原直樹・一瀬諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・馬場大哉(東レテクノ(株))・岸本直之(龍谷大)・西村修(東北大院)

2KA06 湖沼における沿岸帯の機能評価について(6)-浅い富栄養湖沼山ノ神沼における底層環境とシードバンク機能-

*田中仁志(埼玉県環境科学国際センター)・古田世子・廣瀬佳則・藤原直樹・一瀬諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・馬場大哉(東レテクノ(株))・岸本直之(龍谷大学)・西村修(東北大院)

2KA07 湖沼における沿岸帯の機能評価について(7)-底層環境に及ぼす沿岸帯の影響-

*西村修、野村宗弘、藤林恵、相川良雄(東北大)・吉岡修也(立命館大)・一瀬諭(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)

一般講演 第二日目 9月12日(木) 午前

開始時間	B会場	C会場
	河川の生物学	流域の科学
	(座長) 森 照貴 (土木研究所)	(座長) 岩田智也 (山梨大)
9:30	2B01 蛍光マイクロプレートアッセイを用いた各種除草剤に対する河川付着藻類の感受性差の評価 *永井孝志・多屋清志・依田育子 ((独) 農業環境技術研究所)	2C01 矢作川支流の山地溪流における夏期と積雪期の流量 *谷口智雅・宮岡邦任 (三重大)
9:45	2B02 溪流の瀬におけるリター堆積の藻類生産促進効果 *加賀谷隆・後藤元保 (東京大院)	2C02 間伐が溪流水中溶存成分の流出負荷量に及ぼす影響 *小島永裕 (滋賀県森林センター)・長井正博・渋谷佳那・片山幸士 (人間環境大学)
10:00	2B03 出水と河床礫上における付着藻類の回復 *岡田久子・倉本宣 (明治大)	2C03 鉾田川における窒素流出負荷の特徴 *北村立実・吉尾卓宏・井上三喜夫 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター)
10:15	2B04 由良川河口域における物理構造と一次生産の季節変動 *安佛かおり・舟橋達宏・石井健一郎・笠井亮秀・上野正博・山下洋 (京都大)	2C04 讃岐平野における河川の水・物質循環解析のための化学マップの作成 *山田佳裕 (香川大)・福田竜也 (愛媛大院)・中野孝教 (総合地球環境学研究所)
10:30	2B05 千曲川中流域におけるトビケラ目幼虫の生物生産 ヒゲナガカワトビケラ・ウルマーシマトビケラに注目して *平林公男 (信州大)・瑞慶覧光 (信州大院)	2C05 ブラック-ウスチイリムスク水系 (ロシア) の主要成分・栄養塩の濃度変化 *細田耕 (京都大院)・神田航 (京都大)・望月陽人 (京都大院)・三村徹郎 (神戸大)・渡辺泰徳 (立正大)・佐藤泰哲 (山形大)・Valentin V. Drucker (ロシア科学アカデミー)・Vladimir A. Fialkov (ロシア科学アカデミー・バイカル博物館)・杉山雅人 (京都大院)
10:45	(座長) 井上栄壮 (滋賀県琵琶湖科研セ) 2B06 河川生態系における地質・水質と底生動物相との関係 *西田昭夫 (京都共栄学園中・高)・井伊博行 (和歌山大)	(座長) 尾山洋一 (筑波大) 2C06 最近20年間の北海道屈斜路カルデラに産する温泉水の主要イオン濃度 *高野敬志・内野栄治 (北海道立衛生研究所)
11:00	2B07 日本における河川底生動物によるモニタリングの現状と展望 *谷田一三 (大府大)・大高明史 (弘前大)・東城幸治 (信州大)・野崎隆夫 (神奈川県二宮町)・平林公男 (信州大)	2C07 年代解析を併用した地下水の硝酸塩汚染の解析 (2) *戸田任重 (信州大/山岳科学総研)・浅井和由 (地球科学研究所)・宮原裕一 (信州大/山岳科学総研)
11:15	2B08 琵琶湖流入河川における魚類の分布と環境条件の関係解析 *大久保卓也 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・石崎大介・亀甲武志 (滋賀県水産試験場)・井上栄壮・永田貴丸・水野敏明 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)	2C08 利根川流域における MONERIS を用いた栄養塩流出解析 *小暮香奈実 (ウィーン工科大)・水質水資源管理研究所)

一般講演 第二日目 9月12日(木) 午前(続き)

開始時間	B会場	C会場
11:30	2B09 環境 DNA を用いた在来および外来オオサンショウウオの検出 福本想 (神戸大/京都大)・丑丸敦史 (神戸大)・*源利文 (神戸大/地球研)	2C09 流域からの放射性物質流出シミュレーションモデルの開発 *佐藤祐一 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)・上原浩・湯浅岳史 (パシフィックコンサルティング (株))
11:45	(座長) 中野伸一 (京都大) 2B10 Efficiency analysis of two different type fish passages installed at Sejong and Gongju weir in Geum River, Korea *Dong-Sup KIM (K-water)・Min-Ho JANG (Kongju National University)・Ju-Duk Yoon (Kongju National University)	2C10 赤城大沼における福島第一原発事故による放射性物質汚染の実態 *野原精一 (国立環境研究所)・角田欣一・相澤省一・板橋英之・森勝伸 (群馬大)・鈴木究真・久下敏宏・松岡栄一・田中英樹・泉庄太郎 (群馬県水産試験場)・葉袋佳孝 (武蔵大)
12:00	2B11 大規模河川事業以後の河川水質保全計画及び施行方案 *Seungyoon LEE (K-water)	2C11 琵琶湖北湖深湖底の溶存酸素濃度の短期変化に対する研究 *焦春萌・桐山徳也・石川可奈子・井上栄壮 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター) 青木眞一 (滋賀県南部流域下水道事務所)

公開シンポジウム 第二日目 9月12日（木）午後

D会場

公開シンポジウム（13:00～15:30）

湖沼の長期モニタリングを考える：京大・大津臨湖創設から100年を経て

コンビーナー：中野伸一（京都大・生態研）・花里孝幸（信州大・山岳科学総合研）

2S01 大津臨湖実験所の遺産：生物標本が語る琵琶湖100年史

*奥田昇（京都大・生態研）

2S02 諏訪湖のモニタリング結果と長期モニタリングから得られた成果

*花里孝幸、宮原裕一（信州大学・山岳科学総合研）

2S03 琵琶湖におけるモニタリング結果と長期モニタリングから得られた成果

*藤原直樹，一瀬諭，岡本高弘，山中直（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

2S04 池田湖における長期モニタリングと湖水環境の変化

*伊藤祐二（鹿児島大・農）， 靱井和朗（鹿児島大・農）

一般講演 第三日目 9月13日（金）午前

開始時間	A会場	B会場
	底泥の諸プロセス (座長) 由水千景 (京都大)	環境教育 (座長) 大上和敏 (大分大)
9:30	3A01 湖沼の好気環境に出現するメタン極大の形成プロセス *岩田智也・河合巧幾・中川裕介 (山梨大)	3B01 小学校ビオトープを用いた教員養成課程における環境教育の立案と実践 *野崎健太郎 (相山女学園大)
9:45	3A02 日本の湖沼深底部の貧毛類相 *大高明史 (弘前大)	3B02 琵琶湖調査隊報告：琵琶湖および流入河川の感覚調査 *津田久美子 (草津市役所環境課), 荒舘悦子 (環境創研株式会社)・野村潔 (株式会社木下カンセー)・岡本陸奥夫 (NPO 法人預かりものを戻す会)
		陸水物理 (座長) 岩木真穂 (京都大院)
10:00	3A03 琵琶湖最深水域における生元素化合物現存量の鉛直・季節分布の近年10年間の変化 *三田村緒佐武・後藤直成・安積寿幸・石川俊之	3B03 X線CT撮影による湖沼底泥中のガス泡構造の解析 *三浦真吾 ((株) 武揚堂/国立環境研)・高津文人 (国立環境研)・津田啓介・阿武泉 (茨城県立医療大)・山口雅之 (国立がんセンター東病院)・高屋展宏・渡邊英宏・佐藤貴之・今井章雄 (国立環境研)
10:15	3A04 霞ヶ浦の底泥を用いた嫌気-好気溶出実験中のPO_4-P鉛直分布の挙動について *神谷航一 (茨霞環科セ, 筑波大院)・福島武彦 (筑波大院)・大内孝雄・小日向寿夫・井上三喜夫 (茨霞環科セ)	3B04 非定常的な流体運動による底面酸素輸送の変化 *井上徹教・中村由行 (港空研)
10:30	3A05 屋久島西部における水銀の沈着量と土壌中での移動 *菱田尚子 (滋賀県大院)・永淵修 (滋賀県大)・手塚賢至 (屋久島生物多様性保全協議会)・北渕浩之 (滋賀県大院)・横田久里子 (豊橋技科大)	3B05 琵琶湖における冲向き物質輸送 *長谷川直子 (お茶の水女子大)・熊谷道夫 (立命館大)・北澤大輔 (東京大)・伴修平 (滋賀県立大)
	(座長) 山田佳裕 (香川大)	
10:45	3A06 汽水湖・咸水湖・中海湖底堆積物中溶存硫化物及び酸揮発性硫化物の分布と季節変化について *西村和晃・菅原庄吾・野田賢剛 (島根大)・山室真澄 (東京大学)・神谷宏 (島根県保環研)・勢村均 (島根水技センター)・清家泰 (島根大)	3B06 琵琶湖環流に関する残された課題—エネルギー源の問題 *戸田孝 (滋賀県立琵琶湖博物館)

一般講演 第三日目 9月13日（金）午前（続き）

開始時間	A会場	B会場
		沖帯・沿岸帯の生物学 （座長）野崎健太郎（相山女学園大）
11:00	3A07 汽水湖湖底堆積物中パイライトの定量について *久川諒大・菅原庄吾・長塚幸香・久木祐弥・清家泰（島根大）	3B07 琵琶湖南湖の沈水植物の動向 *芳賀裕樹（滋賀県立琵琶湖博物館）
11:15	3A08 浅い汽水湖沼における水・塩分・リン収支と夏季に堆積物から溶出したリンの行方 *神谷宏・小山維尊・中島結衣・野尻由香里（島根県保健環境科学研究所）	3B08 Effect of magnesium on the calcite encrustation of <i>Chara fibrosa</i> Asaeda Takashi (Saitama University) ・ *Senavirathna MDH Jayasanka (Saitama University)
11:30	3A09 高濃度酸素水導入による汽水湖湖底堆積物からの硫化水素とメタンの溶出抑制効果について *菅原庄吾（島根大，東京大）・山室真澄（東京大）・須山雄介（雲南市）・千賀有希子（東邦大）・鮎川和泰・奥村稔・清家泰（島根大）	3B09 宍道湖における維管束植物の繁茂状況と今後の課題 *山室真澄（東京大）
11:45	3A10 湖沼の温暖化影響と N/P 比変化 *坂本充（名古屋大/滋賀県立大）	3B10 音響パルス反射法を用いた水生植物・底泥厚・底質計測手法の開発 *水野勝紀・虻川和紀・浅田昭（東京大）・藤本泰文・嶋田哲郎（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

一般講演 第三日目 9月13日（金）午前

開始時間	C会場	D会場
	沖帯・沿岸帯の生物学	
	（座長）梅原 亮（熊本県立大院）	
9:30	3C01 霞ヶ浦におけるプランクトン珪藻のメタゲノム解析とモニタリングへの応用の可能性 *辻彰洋・新山優子（国立科学博物館）・中川恵・高村典子（国立環境研究所）	
9:45	3C02 印旛沼における植物プランクトンの成長制限要因-リンか、窒素か？- *鏡味麻衣子（東邦大）	
10:00	3C03 琵琶湖北湖沿岸域の異なる底質における付着藻類相 *石田典子（名古屋女子大），宗宮麗（長崎大）・後藤直茂（滋賀県立大），三田村緒佐武（滋賀大）	
	（座長）坂本正樹（富山県立大）	
10:15	3C04 諏訪湖における魚類寄生性ケンミジンコの確認 *戸田龍太郎・花里孝幸（信州大）	
10:30	3C05 琵琶湖のカイアシ類 <i>Eodiaptomus japonicus</i> の生活史特性に与える水温の影響 *リュウ キン、Delphine Beyrend-Dur、Gaël Dur、伴修平（滋賀県立大）	
10:45	3C06 浮葉植物帯形成に伴う動物プランクトン群集の変動 *大久保貴史・花里孝幸（信州大）	
11:00	3C07 富栄養湖におけるワカサギ仔魚の餌選択性と動物プランクトン群集の関係について *君島祥・戸田龍太郎（信州大）・河野成実（長野県水産試験場諏訪支場）・花里孝幸（信州大）	
11:15	3C08 ガンカモ類の原単位算出および積上げ法による負荷量算出の提案 *中村雅子，矢部 徹（国立環境研究所），相崎守弘（島根大）	

ポスター発表 9月11日(水)～9月12日(木)
(コアタイム: 11日 13:00～15:00)

河 川

- P01** スギ人工林の伐採施業が溪流生態系を流れる炭素の ^{14}C 年代に及ぼす影響
*石川尚人(海洋研究開発機構)・富樫博幸(水研セ東北水研)・加藤義和(京都大)・吉村真由美(森林総研関西)・徳地直子・陀安一郎(京都大)
- P02** Ecosystem response to weir construction in the main channel of river (Nakdong River)
*Dong-Il Seo・Sun Woong Kim・Kwang-Hyeon Chang (Kyung Hee Univ.)・Ju-Duk Yoon・Jeong-Hui kim・Sanghyeon Park・Min-Ho Jang (Kongju Univ.)
- P03** 琵琶湖流入河川におけるアユの産卵適地
*小澤元生(龍谷大院)・遊磨正秀(龍谷大)
- P04** 河川におけるウツセミカジカの生息場所特性
*小澤真帆・小澤元生(龍谷大院)・遊磨正秀(龍谷大)
- P05** 土砂堆積による河床の表面構造の変化が魚類の空間利用に及ぼす影響
*小野田幸生・原田守啓・森照貴(土研・自然共生セ)・加藤康充(土研・自然共生セ, 建設環境研)・高木哲也(土研・自然共生セ, 応用地質)・萱場祐一(土研・河川生態チーム)
- P06** 大分県湯布院地域の河川水水質に及ぼす温泉水の影響について
*緒方ひかる(大分大院)・瀬尾千明・大上和敏(大分大)・大沢信二(京都大)
- P07** ヤクシマカワゴロモの生育する一湊川における付着珪藻類の増殖
*北渕浩之・永淵修(滋賀県立大)・横田久里子(豊橋技術大)・手塚賢至・手塚田津子(屋久島生物多様性保全協議会)・鮎川和泰(環境システム(株))・田辺雅博(日科機バイオス)
- P08** ヤクシマカワゴロモが生育する一湊川の水質変遷
*永淵修(滋賀県大)・海老瀬潜一(摂南大)・横田久里子(豊橋技科大)・手塚賢至・手塚田津子(屋久島生物多様性保全協議会)・田辺雅博(日科機バイオス)・鮎川和泰(環境システム(株))
- P09** ヤクシマカワゴロモの一湊川における分布状況と保全
*手塚賢至・手塚田津子・斉藤俊浩(屋久島生物多様性保全協議会)・永淵修(滋賀県立大)
- P10** ヤクシマカワゴロモの生育する一湊川の溶存性有機物
*鮎川和泰(環境システム(株))・永淵修(滋賀県大)・手塚賢至(屋久島生物多様性保全協議会)・北渕浩之(滋賀県大)・横田久里子(豊橋技科大)・中澤暦(滋賀県大)
- P11** ヤクシマカワゴロモが生育する一湊川の水文観測
*横田久里子(豊橋技科大)・永淵修・北渕浩之(滋賀県立大)・手塚賢至・手塚田津子(屋久島生物多様性保全協議会)・田辺雅博(日科機バイオス)・鮎川和泰(環境システム(株))
- P12** 印旛沼流域における晴天・雨天時流出特性に関する調査
*對馬育夫・平山孝浩・北村友一・岡本誠一郎((独)土木研究所)
- P13** 流域に沈着した放射性セシウムの川からの流出
*植田真司・長谷川英尚・柿内秀樹・赤田尚史・大塚良仁・久松俊一((公財)環境研)

P14 「佐鳴湖」上流河川の水環境解析

安立亮一・石崎寛史・伊藤禎基・児玉光樹（静岡大工）・*戸田三津夫・新家正宏（静岡大院工）

P15 パッシブサンプリング法による河川水中の農薬濃度と従来法の濃度との比較

*矢吹芳教・相子伸之（大阪府立環境農林水産総合研究所）・永井孝志・稲生圭哉（農業環境技術研究所）

P16 ダムが河川の水質に与える影響について～長期・広域の観測データに基づいた解析～

*加藤康充（（独）土木研究所 自然共生研究センター/（株）建設環境研究所）・小野田幸生・森照貴（（独）土木研究所 自然共生研究センター）・萱場祐一（（独）土木研究所）

P17 カワゲラの生態と炭素・窒素安定同位体比

*吉村真由美（森林総合研究所）

P18 堆積した無機物が付着藻類の時間変化に及ぼす影響

*宮川幸雄・森照貴・小野田幸生（（独）土木研究所）・高木哲也（（独）土木研究所/応用地質（株））・加藤康充（（独）土木研究所/建設環境研究所）・原田守啓・萱場祐一（（独）土木研究所）

P19 再び信濃川右岸3支川（刈谷田川・五十嵐川・加茂川）陸水生物相の比較

*伊藤章・帆刈信夫・松本史郎・伊藤正一・富樫繁春・佐藤 豊・安部信之・帆刈 信・本間義治（新潟河川生態研究グループ）

P20 琵琶湖集水域のヨシノボリ属におけるアミノ酸窒素安定同位体比の流程変化

*加藤義和（京都大）・石川尚人（海洋研究開発機構）・富樫博幸・（水研セ・東北水研）・由水千景・奥田昇・陀安一郎（京都大）

P21 手賀沼流入出河川におけるユスリカの出現状況

*村上和仁・渡邊賢司（千葉工大）

P22 ため池から多量に有機物が供給される河川の内部生産

*福田竜也（愛媛大院）・野崎健太郎（梶山女学園大）・山田佳裕（香川大）

P23 Efficiency and optimal ecological flowrate of nature-like fishway installed in Sangju Weir, Korea

*Jeong-Hui KIM（Kongju National University）・Dong-Sup KIM (Kwater,)・Ju-Duk Yoon（Kongju National University）・Min-Ho JANG（Kongju National University）

P24 Tracing sources and cycling of phosphorus in a watershed using phosphate isotopes of oxygen

*Abigail P. Cid・Uhran Song・Ichiro Tayasu・Jun-ichi Okano・Hiroyuki Togashi (Kyoto Univ), Naoto F. Ishikawa (JAMSTEC), Aya Murakami (Kyoto Univ)・Takuya Hayashi・Tomoya Iwata (Dept Ecol Syst Engineer, Univ Yamanashi), Ken-ichi Osaka (Univ Shiga Pref), Shin-ichi Nakano・Noboru Okuda (Kyoto Univ)

湖 沼

- P25** Cultivation of *Daphnia* in an outdoor massive culture facility: application of herbivorous zooplankton for algal biomass control in Korean eutrophic reservoir
*Kyung-Jin Park・Hyun-Ah Yuk・Dong-Il Seo・Kwang-Hyeon Chang (Kyung Hee University)・Gui-Sook Nam・Eui-Haeng Lee・Byong Seok Kim (Korea Rural Community Corporation)
- P26** 湖沼堆積物からのリン溶出とホスファターゼの寄与
*早坂俊信（山形大院）・日野修次（山形大）
- P27** 琵琶湖湖岸から沖帯にかけての細菌群集と有機物分解機能の関係
*藤永承平・中野伸一（京大）
- P28** 水圏生態系への重金属の影響評価：メソコスム実験とBLM (Biotic Ligand Model)
*河鎮龍・坂本正樹（富山県立大）・加茂将史（産業技術総合研究所）
- P29** 水上の昆虫類・クモ類種組成は沿岸の水生植物によって異なるか？
*中西奈津美・高木俊・鏡味麻衣子（東邦大）
- P30** 安定同位体比からみた琵琶湖沿岸域における陸封アユの餌資源利用様式と回遊行動の多型
*酒井陽一郎（京大）・武山智博（岡山理科大）・苅部甚一（国立環境研）・陀安一郎・奥田 昇（京大）
- P31** Integrated Ecological Health Assessment of Lake and Reservoir in Korea
*Hyun-Seon Shin・Jai-Ku Kim・Yunkyoung Lee・Bomchul Kim (Kangwon National University, Korea)
- P32** 湖沼における細菌群集の種構成の変動
*竹内梨菜・竹山輝（山形大院）・日野修次（山形大）
- P33** 琵琶湖北湖における溶存態ヒ素の化学種別分析及び季節変化
*長岡愛理・丸尾雅啓（滋賀県立大）
- P34** 琵琶湖水中に溶存するFe(II)配位子のキャラクタリゼーション
*小山和香・丸尾雅啓（滋賀県立大）・小畑元（東京大）
- P35** 活性アルミナを用いた琵琶湖溶存有機物の分画法の検討
*内海理伽（兵庫県立大）・早川和秀（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・藤嶽暢英・木田森丸・真木謙造（神戸大）・熊谷哲・杉山裕子（兵庫県立大）
- P36** 水生植物由来の難分解性溶存有機物の解明
*上原達弥・山室真澄（東京大院）
- P37** 霞ヶ浦におけるケイ素濃度と珪藻量の長期変化要因とモデル化
*荒居博之・福島武彦（筑波大院）
- P38** 霞ヶ浦におけるアオコ発生と風との関係
*柴山慶行・平山孝浩・岡本誠一郎（独）土木研究所）
- P39** 湖沼の植物群落における流れ特性から見た環境改変作用
*宮澤雅光・山室真澄（東京大院）
- P40** 異なる生産者構造を有する富栄養湖沼（太湖、伊豆沼）における底質有機炭素の起源解析
*藤林恵・野村宗弘（東北大院）・許暁光（東北大）・李先寧（東南大院）・相川良雄・西村修（東北大院）

- P41** 地理空間情報から推定した全国のため池の分布とその環境
*木塚俊和・石田真也・角谷拓・高村典子（国立環境研究所）・赤坂宗光（東京農工大院）
- P42** 新聞記事に出現した湖沼の水利用、水環境に関する語句の分析
*川村志満子・福島武彦（筑波大院）
- P43** 衛星画像から見た日本の湖沼の浮葉・抽水植物の分布変化
*尾山洋一・松下文経・福島武彦（筑波大）
- P44** 衛星リモートセンシングを用いた琵琶湖におけるクロロフィル *a* 濃度の推定
*後藤直成・吉原亜悠（滋賀県立大学）・三野義尚・石坂丞二（名古屋大学）
- P45** クロロフィル蛍光を用いた現場植物プランクトン一次生産の測定
太田洋平・後藤直成・*伴修平（滋賀県立大）
- P46** 琵琶湖深水域において 2012 年度に生じた溶存酸素濃度の早期の低下について
*桐山徳也・田中稔・岡本高弘・七里将一・焦春萌（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）・三和伸彦・廣田大輔（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）・青木眞一（滋賀県南部流域下水道事務所）
- P47** 琵琶湖深湖底に生息する底生生物の低酸素耐性
*井上栄壮・永田貴丸・石川可奈子・焦春萌（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）
- P48** 琵琶湖での水草除去実験について
*永田貴丸・井上栄壮・石川可奈子（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）
- P49** 琵琶湖水中のフルボ酸の生物影響評価手法について
*早川和秀・岡本高弘・一瀬諭・古田世子（琵琶湖環境科学研究セ）・田中仁志，（埼玉県環境科学国際セ）三崎健太郎・日下部武敏・清水芳久（京都大）・藤嶽暢英（神戸大）
- P50** 琵琶湖におけるハスとオオクチバスの食性比較
*角田裕志（岐阜大）・浦野隆弘（東京農工大院）・大平充（東京農工大）
- P51** 相補性解析による琵琶湖沿岸態における多様性保全地域の優先度評価
*柴田淳也（京都大）・荻部甚一（国環研）・酒井陽一郎（京都大）・武山智博（岡山理大）・陀安一郎（京都大）・佐藤祐一（琵琶湖環境研セ）・谷内茂雄・中野伸一・奥田昇（京都大）
- P52** 霞ヶ浦およびその流入河川における陸水産底生動物中の放射性セシウム濃度について
*佐竹潔・上野隆平・松崎慎一郎・中川恵・吉葉めぐみ・田中敦・野原精一（国環研）
- P53** 環境 DNA を利用した同種内外来種の迅速把握
*内井喜美子・土居秀幸（広島大）・源利文（神戸大）・山中裕樹（龍谷大）
- P54** 微生物分解に伴う湖沼有機物の窒素安定同位体比の変動
*由水千景・陀安一郎（京都大）
- P55** 低濃度の農薬による食物網構造への影響
*坂本正樹（富山県立大）・永田貴丸（琵琶湖環境科学研究センター）・真野浩行（土木研究所）
- P56** *Phormidium tenue* とされてきた *Pseudanabaena* 属の数種について
*新山優子・辻彰洋（国立科学博物館）・一瀬諭（琵琶湖環境科学研究センター）・中川恵・高村典子（国立環境研究所）

P57 琵琶湖において 2012 年度に生じた特異的な水質変動について

*岡本高弘・田中稔・早川和秀・七里将一・藤原直樹・古角恵美・佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）・南真紀（滋賀県衛生科学センター）・青木眞一（滋賀県南部流域下水道事務所）・五十嵐恵子・桐山徳也・三和伸彦・廣田大輔（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）

P58 大阪府内の農業用ため池における水質の現状

*相子伸之・矢吹芳教（地独・大阪府立環農水研）・北出和美（大阪府立農業大学校）

P59 霞ヶ浦湖水および底泥間隙水における溶存有機物の分子サイズ分布

*佐藤貴之・今井章雄・小松一弘・高津文人・篠原隆一郎・富岡典子・三浦真吾（国環研）

P60 同位体分析と水質を用いた摩周湖漏水の検討

*濱田浩美（千葉大）・田中敦（国環研）・五十嵐聖貴（道環研）・深澤達矢（北大院）・南尚嗣（北見工大），小林拓（山梨大）・藤江晋（てしかが自然史研究会）・大八木英夫（日大）

P61 中国内蒙古自治区阿拉善の半乾燥地の土地利用が地下水の硝酸汚染に及ぼす影響

咸泳植・*根本磯一・吉崎真司（東京都市大学）

汽 水 域

P62 青森県小川原湖における水環境の変化が及ぼす堆積システムへの影響

*永島郁・瀬戸浩二（島根大）・吉田明弘（東北大）・篠塚良嗣（北海道大）・山田和芳（早稲田大）・米延仁志（鳴門教育大）

P63 沖縄県本島河川からの土砂流出による内海底質への影響

*加藤みやび（島根大院）・瀬戸浩二（島根大）・山田和芳（早稲田大），米延仁志（鳴門教育大）

P64 宍道湖における数値解析を用いた貧酸素水塊の動態解明

*中村佑希・山室真澄（東京大院）

P65 宍道湖における水辺植生帯および隣接水域の環境変遷

*小室隆・山室真澄（東京大院）

P66 宍道湖東部におけるヤマトシジミの潜砂行動と底質環境の変化

*森高秀信・瀬戸浩二（島根大）

P67 斐伊川水系河口部における水塊構造と水塊の特徴

*瀬戸浩二（島根大）

水処理・上下水

P68 PCR-DGGE 法を用いた緩速ろ過砂における地域別・深度別の細菌群集構造解析

*清家康平（中部大）・江口雅昭（中部大院）・上野薫（中部大）

P69 緩速ろ過技術を用いた環境水の処理

*中野翔（慶熙大），坂本正樹（富山県立大学），張光玟（慶熙大）

P70 国内の水道水とミネラルウォーターの含有元素および物性による分類

*池晶子（羽衣国際大）・川瀬雅也（長浜バイオ大）・山川純次（岡山大）

発表番号が で囲まれている発表は優秀ポスター賞の対象ポスターです。